

暦と安息日

Jewish calendar & Sabbath



聖書を聖書自身の注解書とする。～W・ミラー～

2023年 如月 25日



📖 申命記に登場する「安息日」

		聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙：安息日]
	タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数：3 / 聖句等の総数 33250 <安息日>3個]
K	申命記	5:12 安息日を守ってこれを聖別せよ。あなたの神、主が命じられたとおりに。
K	申命記	5:14 <u>七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。</u> あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、牛、ろばなどすべての家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。そうすれば、あなたの男女の奴隷もあなたと同じように休むことができる。
K	申命記	5:15 あなたはかつてエジプトの国で奴隷であったが、あなたの神、主が力ある御手と御腕を伸ばしてあなたを導き出されたことを思い起こさねばならない。そのために、あなたの神、主は安息日を守るよう命じられたのである。

申命記5:14a

↓ But **the seventh day** is **the sabbath** of the LORD thy God

七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。



🍷 創世記にある第一の日～第七の日(抜粋)

⑨ 聖書には曜日の記述はない

神の秩序⇔バビロン(混乱)

K	創世記	1:5 光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。 <u>第一の日</u> である。
K	創世記	1:8 神は大空を天と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第二の日である。
K	創世記	1:13 夕べがあり、朝があった。第三の日である。
K	創世記	1:19 夕べがあり、朝があった。第四の日である。
K	創世記	1:23 夕べがあり、朝があった。第五の日である。
K	創世記	1:31 神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった。第六の日である。
K	創世記	2:2 <u>第七の日</u> に、神は御自分の仕事を完成され、第七の日、神は御自分の仕事を離れ、 <u>安息なされた</u> 。
K	創世記	2:3 この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なされたので、 <u>第七の日を神は祝福し、聖別された</u> 。

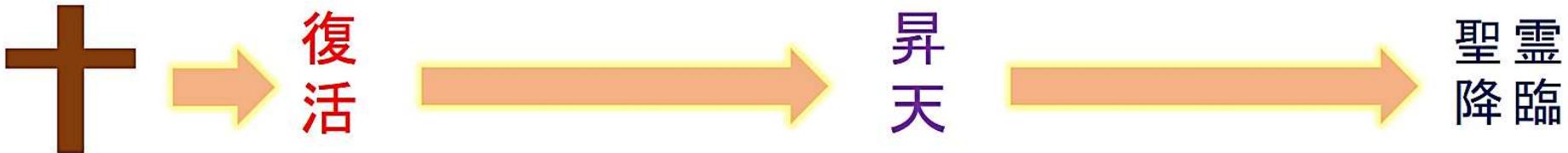


太陽暦・ユダヤ暦・バビロニア暦

「calendar」の語源 = ラテン語で「帳簿 calendarium」

太陽暦	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月(ヘブライ暦)	第一の月	第二の月	第三の月	第四の月	第五の月	第六の月	第七の月	第八の月	第九の月	第十の月	第十一の月	第十二の月	
ユダヤ暦	ニサン Nisan, Nissan	イヤール Iyyar	シバン Siwan, Sivan	タムーズ Tammūz	ア ブ Abh, Av	エルール Elul	ティシュリ Tishri	マルヘ シュバン Marchešwān	キスレーヴ Kislew, Kislev	テベット T'ebheth	シュバット Šabhāt	アダール Adhār, Adar	
バビロニアの月名 ():カナンの古称	ニサン (アビブ)	イヤール (ジウ)	シワン	タンムズ	ア ブ	エルル	ティシュリ (エタニム)	ヘシュワン (ブル)	キスレウ	テバト	シェバト	アダール	
主な行事	←←← 七週間 →→→		七週祭(シャブオット)→詩編68:2~4を朗読 五旬祭(ペンテコステ Pentecoste ギリシア語) ※ユダヤの三大祭:過越祭、七週祭、仮庵祭				1:新年 新年祭(ロシュ・ハシャナ) 10:大贖罪日(ヨム・キップール) 15~21:仮庵祭(スコット)			25:宮清めの祭(光の祭り、ハヌカ) (25日~8日間)		2023- Feb -25 西暦 + 3760年 CE5783-Adar-04	
	14~21 過越祭(ペサハ) 除酵祭		→過越祭(ニサンの月の14~21日) [①過越祭(過越しの祭り):ニサンの月の14日の日没~15日の日没 ②除酵祭(種を入れないパンの祭り):15日の日没~21日の日没]										

- ユダヤ暦は、日本の旧暦と同じく、月の満ち欠けを基準に月を決める方式(太陰太陽暦)です。
- ユダヤ暦は、一日が日没(夕方)に始まり、次の日の日没(夕方)に終わります。それは、聖書の創造の記事に「タベがあり、朝があった」(創世記1:5他)と記されているからです。
- イスラエルでは普段の生活には、西暦も使っていますが、ユダヤ教の祝祭日や公式行事はユダヤ暦によって決められています。
- ユダヤ暦は天地創造を起点にして数えることになっており、西暦+3760年(西暦よりも3760年長い)となる。



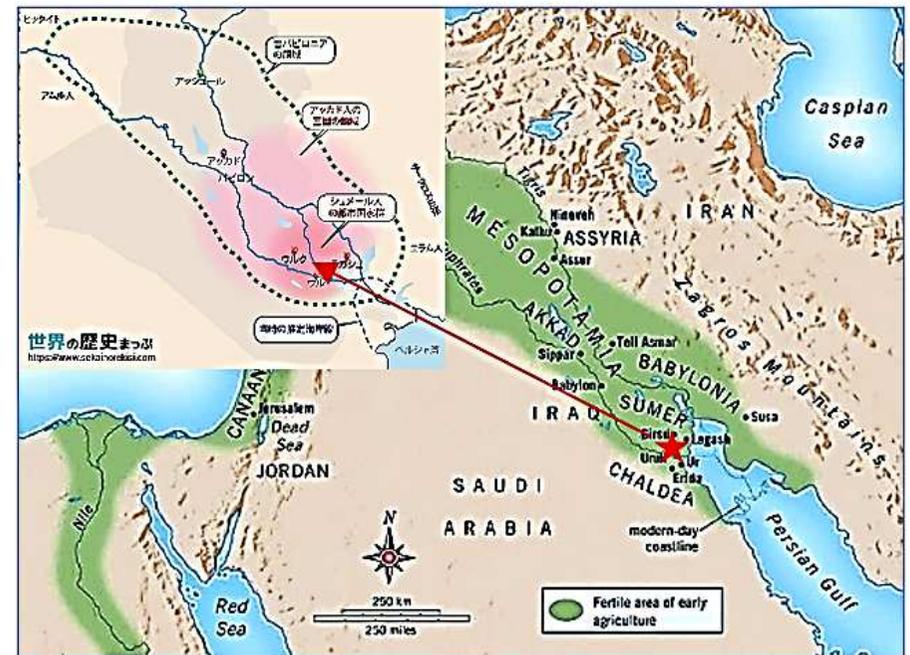
1	2	3日目	2日目	3日目	...	39日目	40日目	41日目	42日目	...	49日目	50日目
金	土(安息日)	日	月	火	...	水	木	金	土	...	土	日
14	15	16	復活から四十日にわたって(使徒1:3)				復活から50日後に集まって祈っていた弟子たちの上に、聖霊が降った(使徒2:1~4) →聖霊降臨日(春の収穫感謝祭の「五旬祭(ペンテコステ)」の日)					
三日目に復活(マタイ16:21他)												

♥天文学(占星術)も発明した古代文明発祥の地 メソポタミア 

メソポタミアはギリシア語で「川の間」を意味し、チグリス川とユーフラテス川の二つの大河の流域の狭間で栄えた土地で、およそ紀元前9千年に遡る歴史を持つ、古代文明発祥の地の一つである。

メソポタミアでは、土器・陶器が発達した北メソポタミアのハラフ文化やウバイド文化から始まり、都市国家として発展したシュメール、アッシリア、バビロニアなど複数の王朝が繁栄し、その過程で多くの人類史上、最古の重要な文明が生まれた。

北メソポタミアでは、天水農業が可能だったため、紀元前1万年頃から集落が生まれたのに対し、南メソポタミアは乾燥地帯であったため、人々の定着はより遅い紀元前5500年頃に行われ、農耕もその頃始まったとされる。



📖メソポタミア(シュメール)文明発祥の主なもの

①60 進法: 楔形文字には1から59に対応する数字(シュメール人が数字を発明した)があった。

アラビア数字(1~9)は、2000年前にインド人が考案し、世界中に広まった。

インドでは、紀元前にすでにアラビア数字(1~9)が使われ、「0(ゼロ)」は7世紀初め頃に誕生し、世界中に広まった。

また、そろばんの始まりも、約4000年前にメソポタミア地方で生まれた“砂そろばん”といわれている。これは砂の上に線を引き、小石を並べて計算するものだった。それを中国では小石を木にかえて串刺しにした。日本では、そろばんは室町時代(1336年~1573年)の末頃に長崎や大阪・堺の港に入ってきたと言われている。最初に伝来したそろばんは、五珠が2個、一珠が5個の中国式そろばん、日本のそろばんは、それを改良してできた。

②天文学: 月30日、年360日とする太陰暦を使っていた。

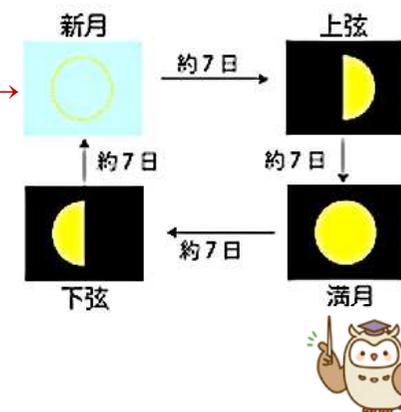
③七曜制: 月の満ち欠けの7日ごとの変化から1週という単位を生み出した。

④青銅器 🦉 週の日数と遊星(太陽・月)の日数との合致→純粋な偶然? →

⑤ビール: 紀元前3000年頃の最古の記録「モニュマン・ブリュー」に製造法が楔形文字で記されている。

⑥法典: 表記されたものとして最古で、シュメールは最古の法治国家である。

⑦王名表 同害復讐法で有名な「ハンムラビ法典」(282条)



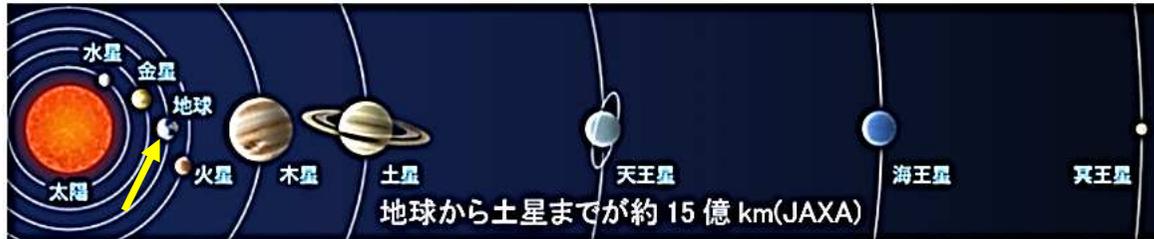
📖 曜日の順序の手がかりとなった「ローマ史」

曜日の順序が「日・月・火・水・木・金・土」となった理由（根拠）の数少ない手がかりの一つとして、ローマ時代（3世紀頃）のカシウス・ディオ（Cassius Dio、ローマ帝国の政治家、歴史家）の著「Historia Romana（ローマ史）」に、上記の二つの説（**①占星術説**と**②音楽説**→両説とも2世紀頃のエジプト、アレキサンドリアの天文学者プトレマイオスの天動説が背景）が記されている。



占星術の基準となった太陽と惑星等

【参考】太陽と惑星等



基準となった天体は、地球から遠い順に

- ①土星
- ②木星
- ③火星
- ④太陽
- ⑤金星
- ⑥水星
- ⑦月

出典(図): 私たちの太陽系



→地球から木星まで6~9億km、火星まで7,800万km、太陽まで1.5億km、金星まで2.6億、水星まで8210万~2.2億km、月まで約38万km

当時は金星よりも動きが速く見える水星の方が、地球に近いと考えられた。

天王星と海王星等は天体望遠鏡の発明以後に発見された惑星で、18世紀以前には知られていなかった。

占星術と音楽説 → ① 占星術 

「時間は天体が支配するととらえ、1日の最初の1時間（深夜の午前0時からの1時間）に当てはめられた天体がその日を支配する「支配星」と考えます。

	0:00～最初の1時間	1:00～	2:00～	3:00～	4:00～	5:00～	6:00～	7:00～	8:00～	9:00～	……	21:00～	22:00～	23:00～24:00 (0:00)
1日目	土星 (の日 = 土曜日)	木星	火星	太陽	金星	水星	月	土星	木星	火星	……	土星	木星	火星 (翌日は太陽から)
2日目	太陽 (の日 = 日曜日)	木星 	水星	月	土星	木星	火星	太陽	金星	水星	……	太陽	金星	水星 (翌日は月から)
3日目	月 (の日 = 月曜日)	土星	木星	火星	太陽	金星	水星	月	土星	木星	……	月	土星	木星 (翌日は火星から)
4日目	火星 (の日 = 火曜日)	太陽	金星	水星	月	土星	木星	火星	太陽	金星	……	火星	太陽	金星 (翌日は水星から)
5日目	水星 (の日 = 水曜日)	月	土星	木星	火星	太陽	金星	水星	月	土星	……	水星	月	土星 (翌日は木星から)
6日目	木星 (の日 = 木曜日)	火星	太陽	金星	水星	月	土星	木星	火星	太陽	……	木星	火星	太陽 (翌日は金星から)
7日目	金星 (の日 = 金曜日)	水星	月	土星	木星	火星	太陽	金星	水星	月	……	金星	水星	月 (翌日は土星から)
8日目	土星 (の日 = 土曜日)	以降、同じパターンの繰り返し												

1週間＝7日の概念は占星術の流行と共に地中海地方やエジプト、ローマ帝国に広まった。

1日目の最初の1時間は土星なのでこの日は土曜日、翌日の最初の1時間は太陽なので2日目は日曜日となり、これを繰り返していくと下表のように、土、日（太陽）、月、火、水、木、金の順番になります。



占星術と音楽説 → ② 音楽説 

ヨーロッパでは長い間、太陽や惑星などの天体は宇宙に満たされた音楽の法則に従って動くと考えられていました。また古代ギリシアでは、四つの音を一つのまとまりとする考え方 (テトラコード Tetrachord 理論) があり、それに従って最初の土星を一つ目と数えると四つ目めは太陽 (日曜日) になり、次は太陽を一つ目として四つ目を見ると月 (月曜日) となり、同じように続けていくと、占星術説と同様、土、日 (太陽)、月、火、水、木、金の順番になります。

天体と音楽を結びつけるのは突飛とを感じるが、古代ギリシアのピタゴラスや惑星運動の法則で有名なケプラー (プロテスタント) もこのような考え方を持っていたと言われている。

土星 木星 火星 **太陽** (日曜日)

太陽 (日曜日) 金星 水星 **月**

月 土星 木星 **火星**

火星 太陽 金星 **水星**

古代中国の天文学でも7惑星から七曜(しちよう)の概念が生まれ、遣唐使、空海(平安時代初期、留学僧、774~835)が9世紀初めに唐から持ち帰った(宿曜経)。七曜では、天体が守護する日をその天体の曜日(ようび)と呼んだ。→例)月が守護=月曜日
ちなみに、「曜日」の「曜」とは、「日・月・星などの天体」「七曜を一週間の七日に配した呼称」のことをいう。

【参考】太陽と惑星等



基準となった天体は、地球から遠い順に
①土星、②木星、③火星、④太陽、⑤金星、⑥水星、⑦月である。

出典(図): 私たちの太陽系
→地球から木星まで6~9億km、火星まで7,800万km、太陽まで1.5億km、金星まで2.6億、水星まで8210万~2.2億km、月まで約38万km

当時は金星よりも動きが速く見える水星の方が、地球に近いと考えられた。
天王星と海王星等は天体望遠鏡の発明以後に発見された惑星で、18世紀以前には知られていなかった。

カード

解説

例文

練習問題

曜日, 月

1 = واحد

2 = اثنين

3 = ثلاثة

4 = أربعة

5 = خمسة

1. 曜日

まずは曜日を覚えましょう。

イスラム教圏では、いわゆる週末の休みが「土、日」ではなく「金、土」とし、日曜から平日扱いとする、というカレンダーが多く採用されている。



السبت، الأحد، الاثنين، الثلاثاء، الأربعاء، الخميس، الجمعة
(土曜，日曜，月曜，火曜，水曜，木曜，金曜)
[as-sabt, al-ʔaħd, al-iθnayni, aθ-θulaaθaaʔ, al-ʔarbiʕaaʔ, al-xamiis, al-jumʕa]

DOWNLOAD



アラビア語の曜日名は、数字を基にして作られ、日曜から木曜までの5つは、まさに数字をあらわす単語と同じ語根をとっている。

日曜から木曜日までは数字の1～5と同じ語根。金曜日はモスクに集まる日なので動詞 jamaʕ-a (ya-jmaʕ) 「集まる」と同じ語根です。

ちなみに、土曜日はユダヤ教の安息日「シャバト」を語源としています。

yawm-a s-sabt(-i) 「土曜日」， yawm-a l-ʔaħd(-i) 「日曜日」...というように、前に yawm 「日」をつけた言い方とつけない言い方のどちらを使ってもかまいません。



🍷 創世記にある第一の日～第七の日(抜粋)

⑨ 聖書には曜日の記述はない



K	創世記	1:5 光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。 <u>第一の日</u> である。
K	創世記	1:8 神は大空を天と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第二の日である。
K	創世記	1:13 夕べがあり、朝があった。第三の日である。
K	創世記	1:19 夕べがあり、朝があった。第四の日である。
K	創世記	1:23 夕べがあり、朝があった。第五の日である。
K	創世記	1:31 神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった。第六の日である。
K	創世記	2:2 <u>第七の日に</u> 、神は御自分の仕事を完成され、第七の日に、神は御自分の仕事を離れ、 <u>安息なされた</u> 。
K	創世記	2:3 この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なされたので、 <u>第七の日を神は祝福し、聖別された</u> 。

♥ ユダヤ教の第七日は土曜日である。



➡ ユダヤ教（キリスト教）における曜日の順序＝第七日目（安息日）は土曜日である

古代ペルシア（メソポタミア）人は、神＝星は各日の各時を支配すると考えた。そして第一日の支配星は土星で、以下順次日、月、火星、水星、木星、金星となっていた。

ユダヤ人はエジプトでの奴隷（出エジプト記6:5、6他）の記憶から、エジプト人の土曜日から始まる習慣を嫌い、土曜日を最後に持ってきた。ローマにおいてもユダヤ人の習慣が踏襲され、日曜日から一週間は始まった。

参考：「暦を知る事典」岡田芳朗（暦の会 会長） 他 著 東京堂出版 P.34～35

→キリスト教の母体となったユダヤ教は、週の最後の日の安息日は土曜であり、日曜ではない。



→ユダヤにおける曜日の習慣は、バビロン捕囚（BC597）が起因となった。

週七日制はメソポタミア地方の古代都市バビロニア（現代のイラク南部）の占星術から始まったとされているが、曜日はローマ帝国内で週の習慣が広がって定着した時期に、七日間あるそれぞれの日に太陽と月、そして5つの惑星の名（火水木金土）が冠せられた。



➡ 安息日、週の初めの日、準備の日を含む聖句の一覧（一部）

		聖書Navi Active 393128091
	タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 10 / 聖句等の総数 33250 <準備の日>4個<週の初めの日>6個] (新共同訳) [検索語彙: 準備の日・週の初めの日]
S	マタイによる福音書	28:1 さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方に、マグダラのマリアともう一人のマリアが、墓を見に行つた。→ <u>六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである(出エジプト記 20:11)</u> 。→1サイクル=7日間
S	マルコによる福音書	15:42 既に夕方になった。 <u>その日は準備の日、すなわち安息日の前日であったので、</u>



…略…

S	ヨハネによる福音書	19:31 <u>その日は準備の日で、翌日は特別の安息日であったので、ユダヤ人たちは、安息日に遺体を十字架の上に残しておかないために、足を折って取り降ろすように、ピラトに願い出た。</u>
S	ヨハネによる福音書	19:42 <u>その日はユダヤ人の準備の日であり、この墓が近かったので、そこにイエスを納めた。</u>
S	ヨハネによる福音書	20:1 <u>週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。</u>
S	ヨハネによる福音書	20:19 <u>その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。</u>



上記の聖句から、「準備の日」「安息日」「週の初めの日」は連続していることが理解できます。

ユダヤ教（キリスト教）における曜日の順序（→第1日目＝日曜日、第2日目＝月曜日・・・第7日目＝土曜日）を考慮すると、**土曜日＝安息日＝第7日目**となります。



※ユダヤ教やキリスト教ではもともと曜日の概念はなかった。
→曜日の順序と聖書にある日をリンクさせて、現在の暦の考えとなった。

⇒第7(七)日目＝安息日＝土曜日



【参考】日曜(→Sunday＝太陽の日)とは

広辞苑：週の第一日。週の最終日とする考え方もある。

明鏡国語辞典：週の第一日。土曜の次の日。

角川類語新辞典：週の第一日。

↑イエスを近くの墓に埋葬する
↑イエスの死(午後三時)

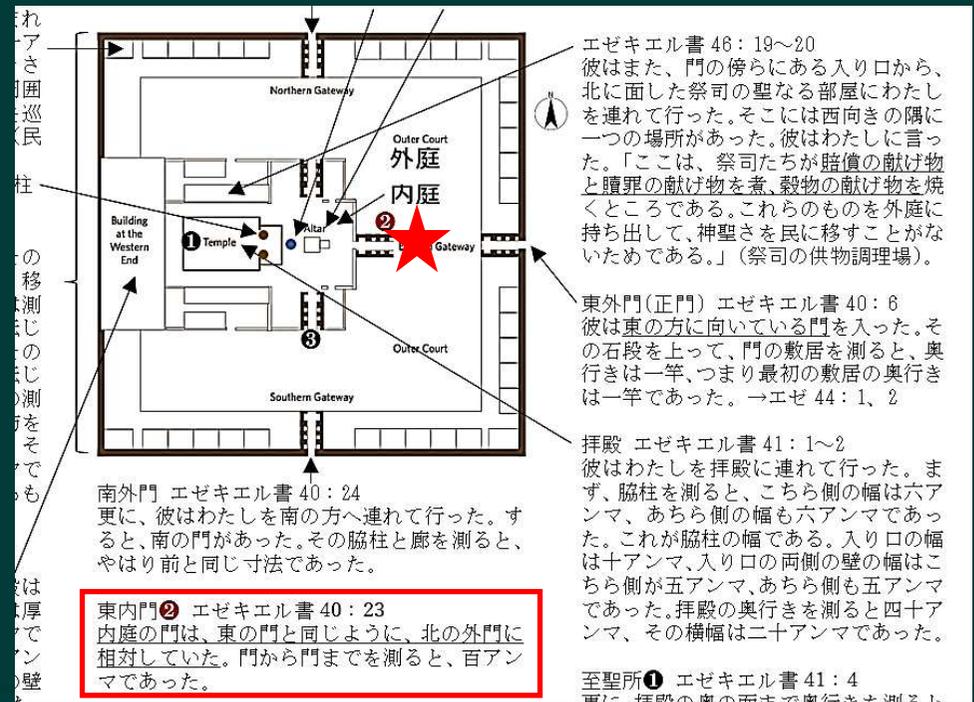
↑イエスご自身も墓の中で安息なさった



↑復活する(明け方)
↑マグダラのマリアの前に現れる

↑弟子たちの前に立つ(夕方)

国の民は、安息日と新月に、門の入り口の所で
 主に向かって礼拝しなければならない。
 —エゼキエル書46:3—



安息日の礼拝 (抜粋) ©H.Taniguchi

【参考】 週制度の継続

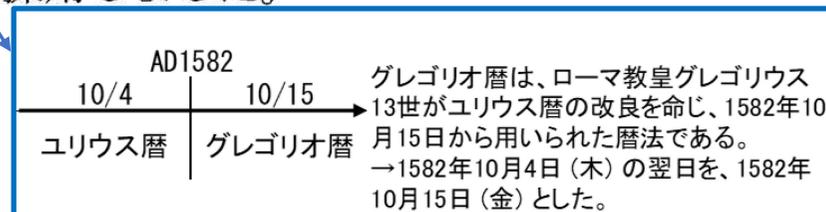
週制度は創世の時以来今日までに中断されたり、変更されたりしたことはありません。



→イタリアの天文学者ジー・スキアパレリは、その著「旧約の天文学」において「安息日の間隔は中断されることなく連続的に行われたことは疑うことができない」と記しています。

→キリスト以後、暦の改訂が行われたのは一回だけです。改訂前の暦はユリウス暦で、改訂後の暦は、改訂を指導したローマ教皇グレゴリウス 13 世の名をとってグレゴリオ暦と呼ばれています。これが今日私たちが用いている暦です。この時、種々の改訂案が出ましたが、カトリック百科事典によると、週制度を廃するという考えは全く出なかったと言われています。「キリスト教時代においては、1 週の日々の順序が決して途切れていないことは、注目すべきことである。グレゴリウス 13 世が 1582 年に改暦を行った時は、10 月 4 日木曜日の次を 10 月 15 日金曜日としたのである。英国においては、1752 年に、9 月 2 日水曜日の次を 9 月 14 日木曜日とした。」

教皇グレゴリウス 13 世の布告によって、スペイン、ポルトガル、イタリアでは直ちに改暦が行われましたが、他の国々はただちにこれに従いませんでした。英国では、1752 年までユリウス暦を使用していました。後、他の諸国でも週日を変更しないでグレゴリオ暦を採用しました。



Bible to Bible

聖書を聖書自身の注解書とする <https://sandacc.org/>

コリントの信徒への手紙一2：13b

霊的なものによって霊的なことを説明するのです。

【参考】 週の第7日(安息日)が、土曜日にあたることを示す説 

[1] 1世紀より2世紀にかけてのコルネリウス・タキトゥス (Cornelius Tacitus,、55年頃～120年頃、帝政期ローマの政治家、歴史家) は、ユダヤ民族の起源を“土星”の神と結びつけ、そのために土星の日に休むと記している。

[2] アレキサンドリヤのクレメンス (ティトゥス・フラウィウス・クレメンス Titus Flavius Clemens, 150年?～215年?、初期キリスト教を代表する神学者の一人、エジプトのアレクサンドリアで活躍したためこの名で呼ばれるが、エジプト出身ではなくギリシアのアテナイの出身と考えられている、ギリシア教父と呼ばれる一群の神学者の一人、オリゲネスとならんでアレクサンドリア学派の代表的な神学者である)、は、当時盛んであったグノーシス派の人々について、「彼らは第4日と準備の日の意味を知っていた。前者は水星の神、後者は金星の神より名づけられた日であった」といっています。これは聖書の週の第4日が水曜日に、また6日の準備の日が金曜日にあたり、第7日は土曜日にあたることを示している。

[3] ラバヌス・マウルス (ラバヌス・マウルス・マグネンティウス Rabanus Maurus Magnentius または Hrabanus, Rhabanus, 780年頃～856年、フランク人ベネディクト会士、ドイツ[フランク王国]のマインツ大司教、神学者) は、次のように記している。「彼(教皇シルヴェステル1世)※2は昔からの習慣に従って第1日を主の日と呼んだ。その日ははじめに光が送られた日であり、またキリストの復活が、祝われた日であった。」これは、聖書の週の第1日が日曜日に当たることを示している。

📖 聖書を学ぶ上で大切なこと 聖書を聖書自身の注解書とする(W・ミラー)。



▶ヨハネによる福音書 13:7

イエスは答えて、「わたしのしていることは、**今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる**」と言われた。

▶コリントの信徒への手紙一 2:13

そして、わたしたちがこれについて語るのも、人の知恵に教えられた言葉によるのではなく、“**霊**”に教えられた言葉によっています。つまり、**霊的なものによって霊的なことを説明する**のです。

【参考】 週の始めは日曜日か月曜日か？(Part.1)

調べる過程で、カレンダーによって日曜日から始まるものと月曜日から始まるものがあり、悩ましかったのですが、広辞苑では、週の始めは、日曜日を基本としつつも、月曜日とする考え方もあり、また、法令上の定義もみられないことから、要はキメの問題であることが分かりました。小売物価統計調査規則では、広辞苑の「日曜」の字義は「週の第一日」を基本としていることをよりどころに、週の始めは日曜日として調査日を規定することとしました。

暦の会「暦の百科事典」に「週と旬」、「週の始めは日曜日か月曜日か」について、「現在の七日週の習慣は、もともとユダヤ人から起きたもので、それは『聖書』に由来する。『旧約聖書』の創世記には、神が六日のうちに天地万物を創り、七日目に休んだと記されている。その日が安息日（サバット）で土曜日に当てられている。ユダヤ人は、この日を安息日としたが、この習慣がキリスト教徒に引き継がれた。

キリスト教では、週の始めの日はキリスト復活の日、主の日とした。これが日曜日である。」とされていました。一方、日付等に関する国際規格は「ISO（=International Organization for Standardization 工業規格を国際的に標準化する機構）8601」で、曜日のコードが定められ、月曜日が1で、日曜日が7とされ、月曜日を週の最初の日ととらえています。ただ、これらの規格で週の始めを月曜日とされていますが、広辞苑における「日曜」の字義は「週の第一日」としています（総務省統計研究研修所教官 奥積 雅彦）。

参考：<https://www.stat.go.jp/library/pdf/minigougai01.pdf>

【参考】 週の始めは日曜日か月曜日か？(Part.2)

アメリカ、ヘブライ語、ポルトガル語、アラビア語、ペルシア語、ベトナム語、中国語、朝鮮語圏などでは日曜日始まりが多く見られます。また、イスラム圏では金曜日が公休日（安息日）であり、週は土曜日から始まります。ヨーロッパでは、キリスト教の方々がたくさんいるにも関わらず、週の始まりを「月曜日」としています。これはISOの勧告に従って、1974年に“生活や実務上では、週の始まりを月曜日にする”ことにしたからです。

気象庁は「土、日曜日」を週末として扱うため、月曜日が週の始まりとなっています。また、日本の手帳（システム手帳）の週間予定表でも、月曜日始まりが多く見られます。国際航空業界の時刻表やUnicode（ユニコード：符号化文字集合や文字符号化方式などを定めた文字コードの業界規格）も月曜日が週の始まりとなっています。小売物価統計調査規則（昭和五十七年(1982年)総理府令第六号）は、週の始まりが日曜日を前提にしています。労働基準法に基づく通達は、1週間を「日曜日から土曜日までのいわゆる暦週」としています。労働基準法に関する通知「昭63.1.1基発1号」（厚生労働省）では、「就業規則その他に別段の定めがない限り、日曜日から土曜日までの暦週」となっています。

→バビロニア神話の神等(大阪教育大学 天文学研究室 松本 桂)